

# ビワ生育情報

第 5 報  
千葉県農林水産部  
令和4年2月号

本年の開花は、11月～12月の平均気温が高かった影響から、「楠」、「大房」、「田中」とも平年より早く進みましたが、1月の平均気温が低く推移したため、果実の発育は平年並みとなっています。

## 花房及び樹の発育

ビワの開花期を表1に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月2日で、平年より6日、前年より8日早かった。「大房」が11月22日で、平年より3日早く、前年より3日遅かった。「田中」が11月5日で、平年より7日、前年より2日早かった。開花盛期は、「楠」が11月20日で、平年より6日、前年より2日早かった。「大房」が12月10日で、平年より7日早く、前年より4日遅かった。「田中」が11月24日で、平年より8日、前年より1日早かった。開花終期は、「楠」が12月8日で、平年より16日、前年より3日早かった。「大房」が1月1日で、平年より14日、前年より28日早かった。「田中」が12月12日で、平年より26日、前年より19日早かった。

花房の出蕾期は3品種とも平年並みで、10月の平均気温は平年並み、11～12月の平均気温は平年より高く推移したため、開花は平年より早く進んだが、1月の平均気温が平年より低く推移したため、果実の発育は平年並みとなっている。

表1 ビワの開花期(暖地園芸研究所)

品 種	開花始期 (月. 日)			開花盛期 (月. 日)			開花終期 (月. 日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 2	11. 8	11.10	11.20	11.26	11.22	12. 8	12.24	12.11
大 房	11.22	11.25	11.19	12.10	12.17	12. 6	1. 1	1.15	1.29
田 中	11. 5	11.12	11. 7	11.24	12. 2	11.25	12.12	1. 7	12.31

平年：1991年～2020年の30年間の平均

## 令和4年1月の気象

令和4年1月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1から第5半旬は平年より低く、第6半旬は平年並みであった。月平均気温は5.4℃で、平年より0.7℃低く、前年より1.2℃低かった

氷点下日数は12日で平年より多かった。最低極温は第1から第3半旬は平年より低く、第5半旬は平年並みで、第4、第6半旬は平年よりも高かった。月全体の最低極温は第1半旬の-3.3℃であった。

降水量は第3半旬で平年より多かったが、それ以外はほとんど降雨がなく、平年より少なかった。月合計は40mmで平年の43%、前年の51%であった。

日照時間は第1、第3、第4半旬は平年より多く、第5、第6半旬は平年並み、第2半旬は平年より少なかった。月合計は175時間で平年及び前年の109%であった。

表2 令和4年1月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	5.2	6.8	6.2	2.0	1.2	0.0	-3.3	-0.1	0.5
2	5.8	6.3	5.1	1.0	1.6	0.0	-1.1	-0.8	0.2
3	5.4	5.9	5.8	3.0	1.4	1.0	-0.9	-0.7	-1.2
4	5.7	5.9	6.8	2.0	1.6	1.0	-0.7	-0.9	-0.2
5	4.5	5.6	8.0	4.0	1.7	0.0	-1.5	-1.5	2.9
6	5.9	5.8	7.4	0.0	2.2	1.0	0.6	-1.6	-1.2
平均/計/最小値	5.4	6.1	6.6	12.0	9.7	3.0	-3.3	-2.8	-1.2

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	14	0	41	28	30
2	9.5	15	0	23	28	29
3	27	14	4	33	27	25
4	0	13	0	35	26	34
5	3	13	20	25	27	26
6	0	14	54	35	34	31
計	40	92	77	191	175	175

平年：1991～2020年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは1月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

### 3月の作業

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。しかし、春先は夜間に冷え込むことがあるため、3月中旬頃までは寒波の襲来に注意する。また、育苗を行う場合、3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。摘果や袋かけは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

### 摘果・袋かけ

摘果・袋かけの作業は、3月以降、寒波の襲来がなくなる頃を見計らって、寒害を受けにくい園から始める。寒害を被った果実は、種子が少なく、形がいびつとなり、成熟前に落果することが多い。袋かけ作業をした後に寒害を被るとその果実が無駄になってしまうので、作業開始が早くなりすぎないように注意が必要である。一方、4月下旬以降まで作業が遅れ、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、適期を逃さない様に行う。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。着果房数が多い樹では1果房に1～2果残し、着果房数が少ない樹では収量を確保するために3果以上着生させる。3果以上着生させると、葉枚数が適正でも果実が小さくなることがあるので、着果房数が少ない場合や個数を重視するときのみ着生させるようにする。

### 接ぎ木

接ぎ木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接ぎ木の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。太いものほど活着後の生育は良いが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室  
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>